

県P連だより

広島県PTA連合会

陽だまり No.56

第46回広島県PTA研究大会 「庄原大会」への思い



実行委員長
政野 太

平成30年は、全国で台風、大雨、地震など災害による大きな被害が相次ぐ年となりました。そして第46回広島県PTA研究大会庄原大会も、台風24号により大会史上初めての中止を余儀なくされました。特に広島県においては、平成30年7月豪雨によって甚大な被害を受けた地域も多く、天災の恐ろしさを実感したばかりの状況の中、今回の大会中止は致し方ない判断でした。

第46回大会は、平成29年度に日本PTA中国ブロック研究大会が福山市で開催されたことから、同年には広島県大会は行われず、平成28年度のせら大会以来、2年ぶりの大会でした。庄原大会実行委員会は、平成29年2月に発足し、約1年半にわたり大会準備を進めてきました。広島県PTA連合会とも様々な協議を重ねてまいりました。大会スローガンを「ともに育み ともに育つ」～大人が育てば、子どもも育つ～と決めました。これは、保護者、地域、全ての大人が学び、成長することが、結果的に子どもたちの成長に繋がるという意味が込められています。この思いを研究大会で会員の皆さまに直接お伝え出来なかつた事は誠に残念至極でございます。

庄原大会実行委員会では全力で準備を進めてまいりました。その中で新たな出会い、コミュニケーションも生まれ、少なからず成長できた事を実感しています。大会にかけた思い、経験を次

大会のはつかいち大会に繋がりたいと思います。おわりに、参加を予定頂いていたご来賓、PTA会員、学校関係者、関係業者、そして庄原大会実行委員会およびスタッフ、全ての関係者の皆さまに、大会開催に向けご尽力を頂きました事に深く感謝を申し上げます。
(第46回広島県PTA研究大会庄原大会
実行委員長 政野 太)

第48回日本PTA 中国ブロック研究大会 山口県岩国大会

11月10日、第48回日本PTA中国ブロック研究大会山口県岩国大会が錦帯橋で有名な岩国市のシンフォニア岩国で開催されました。「抱きしめよう！次代を生きる地域の宝」未来へつなぐ希望の架け橋～を大会スローガンに盛大に開催されました。

大会はウエルカムコンサートで迎えられ、開会行事に続き3団体の実践発表では、PTAを楽しむ活動や「育ての会」の活動、コミュニケーションなど、地域を巻き込んだ興味深い活動の報告がありました。

午後のアトラクションでは、地元の北中山子ども神楽の勇壮な舞の中、突然の可愛い子鬼たちの出演に、会場は笑いと拍手に包まれました。記念講演は、あの「ピリギャル」の著者、坪田信貴先生の「子どもの底力を圧倒的に引き出す5つのポイント」と題して講演をいただきました。その子にとって一番理想的な目標をどのように実現していくかなど、子供との接し方について、経験を交えての楽しく大変参考になる講演でした。

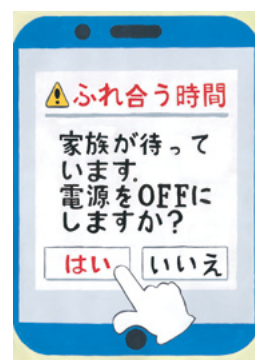
全体を通して大変有意義な大会でした。運営に当たられたスタッフの皆さんありがとうございました。
(広島県PTA連合会理事 山崎 良二)

アウトメディアチャレンジ ポスター原画募集

広島県PTA連合会として、家庭での会話を増やそうという「アウトメディアチャレンジ」に取り組んできました。情報が氾濫する現代社会の中で大人も子供も実に様々な情報電子機器(テレビ・DVD・ゲーム機・パソコン・携帯電話・スマホなど)に頼って暮らしています。これらの機器ははとも便利で生活を豊かにすると同時に、人間同士の会話も少なくなってしまうデメリットもあります。

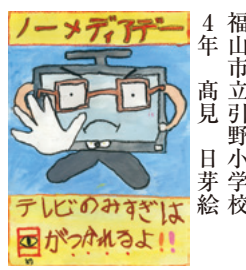
「アウトメディアチャレンジ」では、それらすべてを無くして「家族で触れ合う時間をつくる取組」を目指しています。完全に情報機器を無くすることは不可能でしょうが、日を決め、時間を決めて「メディアのない家族のふれあい時間」を増やしてみようでしょうか？

●最優秀賞

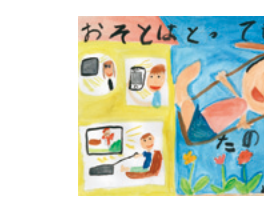


尾道市立向島中学校
3年 酒匂 杏実

●優秀賞



福山市立引野小学校
4年 高見 日芽絵
安芸郡
坂町立横浜小学校
1年 北東 梨華



第66回 日本PTA全国研究大会 (新潟大会)

全体会に参加して

8月25日(土)に今回の新潟大会の最後を飾る全体会へ参加しました。会場は長岡市内にあるアオーレ長岡と同時中継でハイブ長岡の2会場で行われました。オープニングでは長岡市内の小中学生による書道やダンス、吹奏楽等のライブパフォーマンスに圧倒されました。そのパフォーマンスをみただけで長岡市の教育力の高さを垣間見ることができました。

その後の式典では、大会の旗が新潟の実行委員会から来年開催の兵庫の実行委員会へ手渡されました。また日本PTA全国協議会の東川会長のあいさつでは、社会環境の劇的で急速な変化や、先生(公務員)の働き方改革等今後ますます教育の原点である家庭教育へ立ち返り考える必要があると言われていました。まさに言われる通りだと共感していました。

特別第一分科会報告

8月24日(金)、新潟田市民文化会館で特別第一分科会「いじめ」心の声に気付くには「見逃さないためにできること」が開催されました。

歓迎アトラクションに続き、「我が子のいじめに親としてどうかかわるか『仲間』と『自立』をキーワードに」と題して、鳴門教育大 いじめ防止支援機構長 阿形恒秀氏の講演がありました。

先生のお話は、大人が子どもの被害・加害の芽に早く気付くことが大切であること、でも決して簡単なことではないというものでした。普段から子どもとコミュニケーションをとっていないと、変化に気付けないということもおっしゃっていました。

次に、小学校高学年から中学校・高等学校時代の子どもたちは「年の近い友達・仲間を

記念講演では新潟県出身の俳優高橋克実さんの記念講演がありました。

高橋さんの子どものころのお話から俳優として売れるまでの苦労話など高橋さん独特の肩の力が抜けたトークで会場も和やかな雰囲気であつという間に時間がたちました。お話の中で売れるまで10年以上かかったけど、振り返ってみて好きなことやっていただけ、あまり苦労とは感じて無かった。それより今やっている情報番組の方がよっぽど苦労していると笑いを誘っていたのが印象的でした。

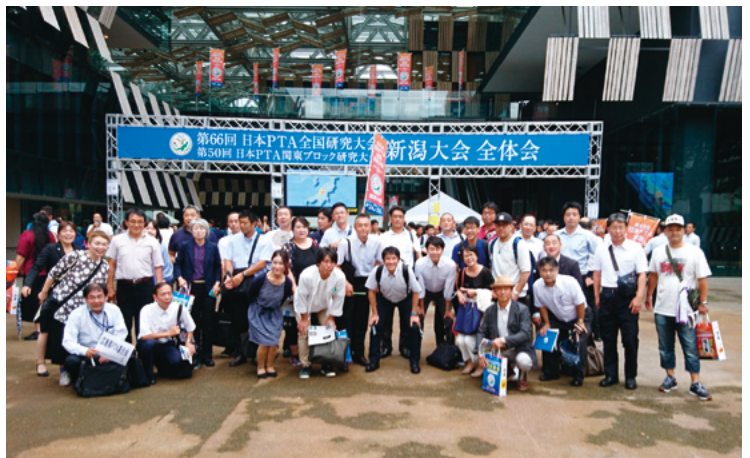


PTAの会員数千人が一室に会する全体会に参加して改めてこの組織のパワーを感じることができました。(広島県PTA連合会理事 高橋 武也)

つくる」と「大人から自立する」という2つの課題に直面しているからこそ、仲間外れにされることの辛さは非常に深刻だということでした。

けれど、「自立」というもう一つの課題もあり、子ども自身が仲間との採め事に大人が介入することを快く思いません。「分かってほしい」と「知られたくない」の間で揺れています。こうした子どもが出すシグナルを見逃さないということがとても大切だと思います。学校と家庭で見せる顔は異なることが多いので、学校と保護者の連絡・連携が何よりも大切となります。

今回、この大会での学びをしっかりと生かしていきたいと思えます。(広島県PTA連合会理事 藤原 陽子)



全国研究大会に参加して

○会場の熱気に圧倒された。また、たくさんの人たちが運営に関わって動いている姿を見て、全国大会のすごさ、大変さを実感した。

○日本各地からPTA関係者が集まり、このような素晴らしい大会が開催されていることを目の当たりにして、「すべての子どもたちのために」と日本中のPTAが日々活動していることを実感した。

○親である自分たちの体験(成功や失敗)を子どもたちにちゃんと伝えていられるのか考えさせられた。

○分科会で行われたワールドカフェ形式による討論会では、皆が自由な意見を交わすことができ、有意義で有効な手法だと感じた。

○過去の常識にとらわれず、変化を恐れず時代に合ったPTA活動が必要だと思った。

○他県のPTAの方々とも情報交流する機会があり、PTA活動の重要性をさらに感じることができた。

第三分科会報告

第三分科会では、先人の知恵を現代の学校教育にどのように生かすか「学校とともに歩むPTAの在り方」を研究課題とし、長岡市教育委員会の高橋謙教育長による基調講演が行われました。人材育成の尊厳を説く長岡藩の故事「米百俵」の精神を生かした小国中学校の地域貢献活動の事例や、中之島地域の特産品「大口レンコン」を栽培・販売する上通小学校の活動事例を学びました。

「小林虎三郎の想い『米百俵の米も、食らえばたちまちなくなるが、教育にあてれば明日の一万、百万俵となる。』で、国漢学校を作り、『教育第一主義』を説いた。市民みんな教育を充実させたい。」と述べられました。子ども達が夢をもち、夢を追いかけ明るい

未来を信じて成長するため、学校・地域と共にPTA活動を行っていきたくと思いました。

また、パネルディスカッションではあるパネラーの方が、「何かを行う時、キーワードが必要である。旗上げが必要である。」と言われました。「チーム広島県PTA」をキーワードとし、PTA活動を盛り上げて行きましょう。



(広島県PTA連合会会計 花谷 浩幸)

三行詩コンクール「楽しい子育て全国キャンペーン」

「家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ」



平成三十年七月五日（木）県P連事務局において、県P連理事・監事が集い、審査を行いました。応募総数一七二三の中から、小学生の部・中学生の部・一般の部それぞれから各五点を選出し、日本PTA第一次審査（各県審査）通過作品として推薦しました。日本PTAでは第二次審査・第三次審査及び最終審査の三回の審査の結果奨励賞が贈られました。

平成30年度広島県PTA連合会賞受賞作品一覧

● 小学生の部

三原市立久井小学校 3年 下 優太
 ぼくがわらうと お母さんわらうと。
 お母さんがわらうと ぼくもわらうと。
 えがおがいっぱい うれしいな。

福山市立御幸小学校 6年 今川 沙稀
 ママとけんか
 声を聞くだけでまたイライラしてへる
 仲直りするもんか
 だけどママに話したいことはいっぱいあって
 でも、素直になれなくて
 だから、お皿を洗って伝える

庄原市立東小学校 3年 堀 隼人
 もし、パパがいなくなったら
 かなしいよ さみしいよ
 もし、ママがいなくなったら
 どっしり、考えたくないよ
 もし、ぼくがいなくなったら・・・
 みんないっしょってしあわせなんだな。

福山市立御幸小学校 3年 今川 陽斗
 おかあさんとケンカした。
 こはんなんていらないうつた。
 でも食べた。つめたくなつたごはん。
 ついでにしまったおいしい。
 なみだがこぼれた。
 そのなみだがなかなあおりのしるし。

● 一般の部

福山市立御幸小学校 3年 内田 夏帆
 ママのごはんは とってもおいしい
 けんかをして も すくなくもあり
 おいしいごはんの まほうのおかげ

安芸郡海田町立海田西中学校 3年 板屋 羽瑠
 「おはよう」と すてきなアラーム いつもなる
 毎朝の机の上のお弁当
 感謝の言葉は照れ、言えない
 だから お返し 空のお弁当
 心の中でありがごとく

廿日市市立廿日市中学校 3年 大本 祐希
 画面より 見るべきものは 親の顔
 「ただいまが いっつからかめしほっ」
 に代わった
 あと何日だろう いっしよに 食べら
 れる日は
 生意気言っても 母さん飯を まだ
 待ってる姿も今のうち

福山市立中央中学校 3年 池田 莉央
 母私 共有する物 多くなる

福山市立中央中学校 3年 加藤 真奈
 車で急ブレーキをした時に
 お母さんの手が私を支えた
 いつでも私が最優先

福山市立立神小学校 3年 山崎 琴美
 福山市立立神小学校 3年 堀 隼人
 福山市立立神小学校 3年 今川 陽斗

楽しむ読書 役立つ読書



「本から始まる 楽しい語り」

読書をするとき、皆さんはどのような本を選びますか？ 映画で先に楽しんでから、原作である小説を読むこともあるでしょうし、図書館や書店で「タイトル」に引き付けられた本を手取ることもあるでしょう。何を読んでいいか分からないという方は周りの人に聞いてみるのも一つの方法だと思います。私自身、これまで読んできた本のほとんどは誰かに薦められて読んだものです。

私の身近には父親という読書家がいまして、
 「なにか面白い本はないか」と聞いていました。父と同じ本を読むことで、そこから話題が広がることもありました。
 友人にも様々な本を教えてもらいました。なかには自分では選ばないような本もありましたが、思い切って読んでみると新しい世界を知ることができました。

周りの人におすすめる本を聞いてみたことで、コミュニケーションが深まったこともあります。日常会話の中で「何か読みたいんだけどいい本はないかな？」とか、「最近何か読んだ？」と声を掛けてみたところ、同じ本を読んでいて意見交換することができたり、本の感想から相手の新たな一面を知ることがあったりしました。

また、図書館などで行われている読書会やビデオバトルも、「本を使って会話ができる」を感じることがあります。いろんな人や本との出会いがあり、自分と違う読み方や考え方に触れ、一人では気付かなかった発見があります。

このように、本を介して人とつながることが出来るのも、読書の魅力の一つだと思います。自分が読んだ本について、ほかの人と共有することが対話のきっかけとなり、話が弾むかもしれません。

家庭で、職場で、ちょっとしたときに読書の話題をしてみたいかがでしょうか。
 （広島県教育委員会生涯学習課 小笠原拓也）

道徳教育パワーアップフォーラムに参加して

「ご存知ですか？ 特別の教科「道徳」が、本年度小学校で全面实施されたことを。そして来年度、中学校でも全面实施されることを…。」

その状況の中、本年度も「道徳教育パワーアップフォーラム」が8月10日、アステールプラザにおいて開催されました。内容は、本県の現状を踏まえた道徳教育の説明から始まり、「広島県道徳教育のさらなる推進に向けて」と題したシンポジウム。午後から保護者部会で「江田島市立江田島中学校区の取組」の実践報告および演習、そして兵庫教育大学谷田増幸教授の講演「『主体的・対話的で深い学び』のある道徳の実現に向けて」指導と評価の一本化を踏まえて」を視聴しました。

今回のフォーラムで、一番印象に残ったことは、保護者部会 広島大学 宮里智恵教授の講演「学校・家庭・地域社会との連携による道徳教育」の中で、子どもが次第に社会性を身につけていく社会化



の過程は、子ども自ら学習していく側面、そして周りの人々から学習していく援助の側面がある。特に核家族化や少子化、地域との結びつきが希薄化していく中では、子どもと教師の間にいる方（家族や地域の方々）を道徳教育の場に招き入れ、道徳性を育てる応援団となって頂くことが重要と感じました。水面にできる波紋が大きく広がるよう、我々PTAは学校・家庭・地域を繋ぐことが出来る一番身近な存在ではないでしょうか？ 共に頑張ります！

（広島県PTA連合会理事 二宮 仁）

広報委員長からのコメント

一年で3回発行している「陽だまり」において、広島県PTA連合会の活動を紹介しています。

全国、中国ブロック、広島県の研究大会や、母親代表研修会などの内容を、参加できなかった方々にも伝わるような広報づくりを目指して、広報委員一同と事務局のみなさんと日々頑張っています。読んで感想など頂けると嬉しいです。

（広島県PTA連合会副会長 広報委員長 山田 洋子）

充実の補償で
お子様を
サポートします

●誤って他人のものを壊したり、他人にケガをさせてしまったら…
(加害事故の補償)

インターンシップ（職場体験）等に起因する法律上の賠償責任も対象になります。

●授業中やクラブ活動など、校内外を問わず発生する急激かつ偶然な外来の事故によるケガや病気*の補償

*病気入院補償はHプラン・Wプランのみ対象です。



団体割引適用で
割安な保険料！

団体割引30%
損害率による割引30%適用
スクールメディカルデスク24でお子様の健康相談を24時間受付

- 学校管理下中の学用品・身の回り品などの補償
- 育英費用等

充実の補償でお子様をサポートします。
広島県PTA連合会
小・中学生総合保障制度



小・中学生総合保障制度はこども総合保険のペイトネームです。この広告は「広島県PTA連合会小・中学生総合保障制度」の概要について紹介したものです。保険の内容はパンフレットをご覧ください。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読み下さい。詳細は契約者である団体の代表者の方にお渡ししてあります保険約款によりますが、ご不明な点がございましたら取扱代理店・引受保険会社までお問合せください。この保険契約は、以下の保険会社による共同保険契約であり、東京海上日動火災保険が他の引受保険会社の代理・代行を行います。各引受保険会社は、契約締結時に決定する引受割合に応じて、連帯することなく単独別個に保険契約上の責任を負います。なお、引受割合につきましては、団体窓口にご確認ください。平成30年6月作成 募文No18-T01881



引受幹事保険会社

東京海上日動火災保険株式会社

お問合せ先・取扱代理店：(株)東海日動パートナーズ中国四国 TEL：0120-018-217
保険会社：東京海上日動火災保険株式会社 広島支店 広島中央支社 TEL：082-511-9194

パンフレット・重要事項説明書は左記「お問合せ先」にご請求下さい。

共同引受保険会社

あいおいニッセイ同和損保

MS&AD INSURANCE GROUP